

# こどものひろば整備の基本的考え方

平成23年3月

愛 知 県

## 目 次

---

1 . 「こどものひろば整備の基本的考え方」とりまとめの目的 .....	1
2 . 愛・地球博記念公園及びこどものひろばの現状 .....	2
( 1 ) 愛・地球博記念公園の現状と計画 .....	2
愛・地球博記念公園の現状 .....	2
愛・地球博記念公園基本計画に基づく整備の概要 .....	3
( 2 ) こどものひろばの現状 .....	6
3 . こどものひろば周辺の都市計画・土地利用の状況 .....	8
( 1 ) 周辺の都市計画・土地利用の現状 .....	8
( 2 ) 周辺土地利用の将来 公園西駅周辺 .....	9
( 3 ) 周辺土地利用の将来 愛・地球博記念公園駅周辺 .....	10
4 . こどものひろばの位置づけ・役割について .....	11
( 1 ) 愛・地球博記念公園基本計画での位置づけ .....	11
( 2 ) 周辺のまちづくりからみた役割 .....	11
( 3 ) 公園来訪者の視点からみた位置づけ .....	11
5 . こどものひろば整備の基本的考え方 .....	12
( 1 ) 集客力向上に向けた意見 .....	12
( 2 ) こどものひろば整備に関するコンセプト .....	15
( 3 ) こどものひろばのキャッチフレーズ .....	15
( 4 ) 整備方針 .....	16
( 5 ) 整備イメージ .....	19
6 . 民間企業による整備の検討 .....	20
( 1 ) こどものひろば整備関連企業検討会の開催 .....	20
( 2 ) 民間企業による整備の方向性 .....	23
7 . 今後の集客力向上に向けた取組みの検討 .....	24
( 1 ) 県による整備 .....	24
( 2 ) 民間事業者による整備 .....	25
( 3 ) イベント及び既存施設との連携等ソフトによる取組み .....	27
( 4 ) 整備スケジュール( 想定 ) .....	28
資料編 .....	29

# 1. 「こどものひろば整備の基本的考え方」とりまとめの目的

愛・地球博記念公園（モリコロパーク）へのアクセスのひとつであるリニモは、2005年日本国際博覧会「愛・地球博」の閉幕後、利用者は着実に増加しているものの当初の予想を下回っている。そうした状況のもと、愛知県としてもリニモ沿線の魅力ある地域づくりによってリニモの利用者の増加を図り、リニモの経営を安定化させる必要があるが、リニモ沿線施設の中で最も高いポテンシャルを持つ愛・地球博記念公園を、より魅力的な施設として整備することで、来場者の増加を図り、ひいてはリニモの利用者増につなげたいと考えている。

平成18年度に策定された愛・地球博記念公園（モリコロパーク）基本計画で、「子どもの遊び・体験・レクリエーションの場」として性格が位置づけられている「こどものひろば」は、基本計画策定後、ひろば内にある愛知国際児童館が廃止される等、活用方策における状況が変化しつつある。そうした中で、この「こどものひろば」一帯は、リニモの公園西駅周辺や地元による新たな開発が検討されている地域に隣接しているため、まちづくりのエリアとしての重要性がますます増している。

今回、「こどものひろば」の整備方向や民間活力の導入及び公園西駅周辺のまちづくりの中での役割等について、有識者や民間企業等から意見を伺いながらとりまとめ、現在の公園のプレゼンスを一層高め、集客機能の充実・強化と同時にリニモの利用促進等につなげていきたいと考えている。

とりまとめにあたっては、整備に関心のある民間企業で構成する「こどものひろば整備関連企業検討会」、有識者や地元自治体等で構成する「こどものひろば集客力向上検討会」を開催し、議論を進めてきた。

今後は、この基本的考え方を踏まえながら、23年度以降のこどものひろば基本設計の策定につなげていく。

## 2. 愛・地球博記念公園及びこどものひろばの現状

### (1) 愛・地球博記念公園の現状と計画

#### 愛・地球博記念公園の現状

##### 【概要】

種別：広域公園

位置：愛知郡長久手町大字熊張字茨ヶ廻間、字鯉ヶ廻間、  
字石場及び字広田並びに大字岩作字三ヶ峯

面積：約 194.2 ha

都市計画の告示日：平成 14 年 9 月 27 日

##### 【広域図】



##### 【現状】

愛・地球博閉幕後、平成 18 年 7 月に第一期としてオープンし、その後も愛・地球博記念公園（モリコロパーク）基本計画に基づいて段階的に整備を進めている。平成 22 年 10 月には、地球市民交流センターが市民参加・市民協働・交流活動の拠点施設としてオープンする等、公園面積全体の 61.5%（H22.10.1 現在）が整備済みとなっている。

そうした状況ではあるが、基本計画で想定する年間利用者数が 310 万人なのに対し、平成 21 年度の実績では 126 万人の利用にとどまっている。

## 愛・地球博記念公園基本計画に基づく整備の概要

平成19年3月策定の愛・地球博記念公園基本計画に基づき、以下のように整備を進めている。

### 【整備計画図】



【整備（予定）施設一覧】

ゾーン	エリア	施設名		施設概要
ひろばのゾーン	アイデアのひろば	1	地球市民交流センター	市民参加・交流活動拠点、多目的多用途機能空間、休憩、インフォメーション、屋内運動施設、公園管理運営等
		2	フレンドシップ広場	記念公園としての象徴空間、市民等の多様な主体の参加の場
		3	愛・地球博記念館	博覧会開催記念品や映像の展示、迎賓館・レセプションホールを活用
		4	博覧会記念樹の森	博覧会を記念した記念樹を移植
	みんなのひろば	5	大芝生広場・お花畑	広く開放的な芝生とお花畑がある交流空間
		6	県民公園づくり空間 - 1	県民参加の公園づくり空間（H24年度一部供用）
		7	花の広場	花木や草花により、四季の景を楽しむ空間、花と緑にかかわる新技術提案の場
		8	キャンプ場	デイキャンプ型、団体利用を主体としたアウトドア空間
		9	温水プール	（既設利用）流水・造波・25m・ちびっこ・冒険の各プール、スライダー、ジャグジー等
		10	アイススケート場	（既設利用）外周リンク周長200m・内リンク・スタンド
	こどものひろば	11	県民公園づくり空間 - 2	子ども主体の県民参加の公園づくり空間
		12	自然体感遊具	風・水・森の各エリアで自然を体感しながら遊ぶ空間 敷地面積：1.1ha
		13	乗り物体験広場	ワクワク感、爽快感を体験できる乗り物遊戯空間 敷地面積：1.2ha
		14	愛知県児童総合センター	（既設利用）プレイアトリウム、各種プログラム等 敷地面積：0.2ha
		15	愛知国際児童年記念館	（既設利用）こどもホール、童話館、ビデオ室等 敷地面積：0.6ha
	北エントランスひろば	16	北エントランス広場 北駐車場	（県道）カ石名古屋線、リニモ駅からのアクセスとなる公園の北入口・駐車場：普通車 1,039台、大型車約 49台

ゾーン	エリア	施設名		施設概要
ひるばのゾーン	西エントランス ひろば	17	西エントランス広場 西駐車場	(県道) 田柵名古屋線からのアクセスとなる公園の西入口・駐車場：普通車 392 台、大型車 10 台
		18	あいちアートスクエア	彫刻等を配し、県産材を舗装等に活用した広場
	健康スポーツひろば(北)	19	テニスコート	8 面 (H24 年度供用)
		20	多目的球技場	サッカー場 1 面、ラグビー場 1 面、ホッケー場 1 面 : (兼用) (H24 年度供用)
		21	屋内運動施設	体育館 (地球市民交流センター内へ併設)
	健康スポーツひろば(南)	22	多目的広場	300mトラック 1 面、サッカー場 1 面、ホッケー場 1 面、野球場 1 面、ソフトボール場 2 面 : (兼用)
		23	野球場	野球場 3 面、ソフトボール 3 面 (兼用) 南駐車場：普通車 362 台、大型車 10 台
もりのゾーン		24	林床花園	ユニバーサル園路を利用して、四季折々の樹林風景を楽しむ空間
		25	日本庭園	水や緑に囲まれた環境の中で地域の伝統文化とふれあう空間、茶室 (香流亭) 1 棟
		26	親林楽園	フィールドセンター (27) を拠点とした環境学習・体験空間
		27	フィールドセンター (もりの学舎)	自然体験やクラフト工作等を通じて、楽しみながら環境について学ぶことができる体験学習施設
		28	サツキとメイの家	博覧会人気施設の期限付き存置活用
		29	自然観察園	水辺の植物や生物の観察空間
		30	緑のリサイクルセンター	刈草・剪定枝等をチップ及び堆肥化し、園内における緑のリサイクルを実践する施設
	31	南部樹林地	保全を優先した樹林地	
全域		32	サイクリングコース	1 周約 5km のサイクリングロード、一部既設利用

: 整備済み

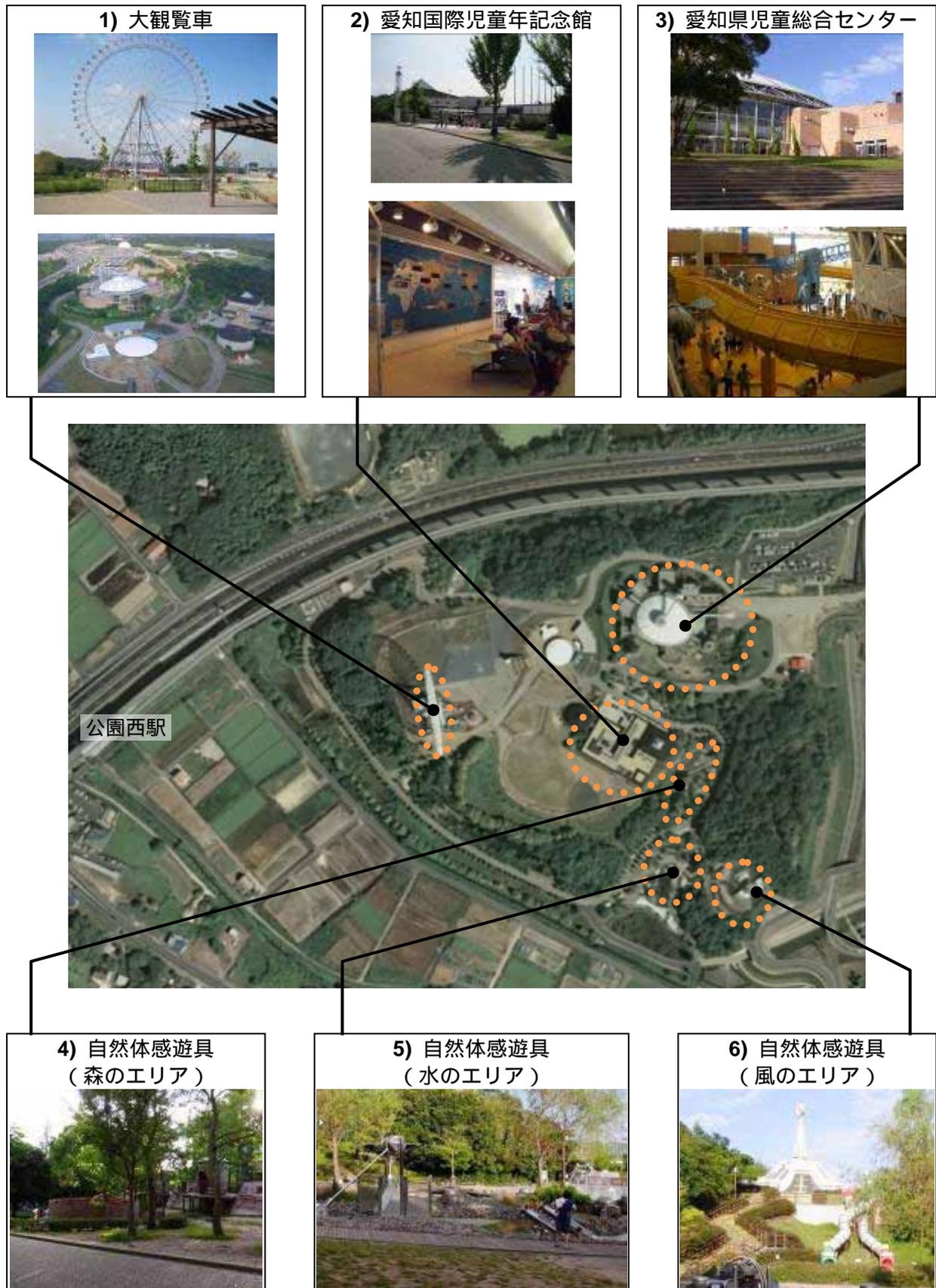
## (2) こどものひろばの現状

### 【施設の概要】

こどものひろばは全体面積が約 18ha であり、現時点において以下に整理している施設が整備されている。大観覧車以外の施設は行政が所有し、指定管理者が管理している。

施設名	概要	所有者	管理者
1) 大観覧車	モリコロパークを一望できる大観覧車、周辺に他の有料遊具・アミューズメント機器等もある。	泉陽興業(株)	泉陽興業(株)
2) 愛知県児童総合センター	施設内に五感を駆使して身体の感覚を確かに感じることで遊べる遊び、身のまわりのものや出来事に新鮮な気づきを提供する遊具等を設置している。また、体験学習や研修を行っている。	愛知県健康福祉部	(財)愛知公園協会
3) 愛知国際児童館記念館	童話の主人公たちと会える『童話館”メルヘンプロムナード(童話の散歩道)”』や、小さな子どもでも海中散歩、名古屋の空中散歩などを簡単に味わえる映像体験コーナーがある。平成 23 年度撤去予定。	厚生労働省	(財)愛知公園協会
4) 自然体感遊具(森のエリア)	万博当時のグローイングビレッジを残したもので、木道のスロープや木樽(内部が休憩所)が設置しており、森の匂い、風の音を聞く風の耳、森を覗く潜望鏡等がある。また、アスレチックや小さなすべり台もある。	愛知県建設部	(財)愛知県都市整備協会
5) 自然体感遊具(水のエリア)	万博当時の水の広場を残したもので、ミストシャワー、噴水、水車等が設置されており、水遊び場として利用されている。	愛知県建設部	(財)愛知県都市整備協会
6) 自然体感遊具(風のエリア)	頂点に風車のついた円錐状の白い遊具がありすべり台として、遊ぶことができる。また、水のエリアにつながるチューブスライダーがある。	愛知県建設部	(財)愛知県都市整備協会

【施設配置図】

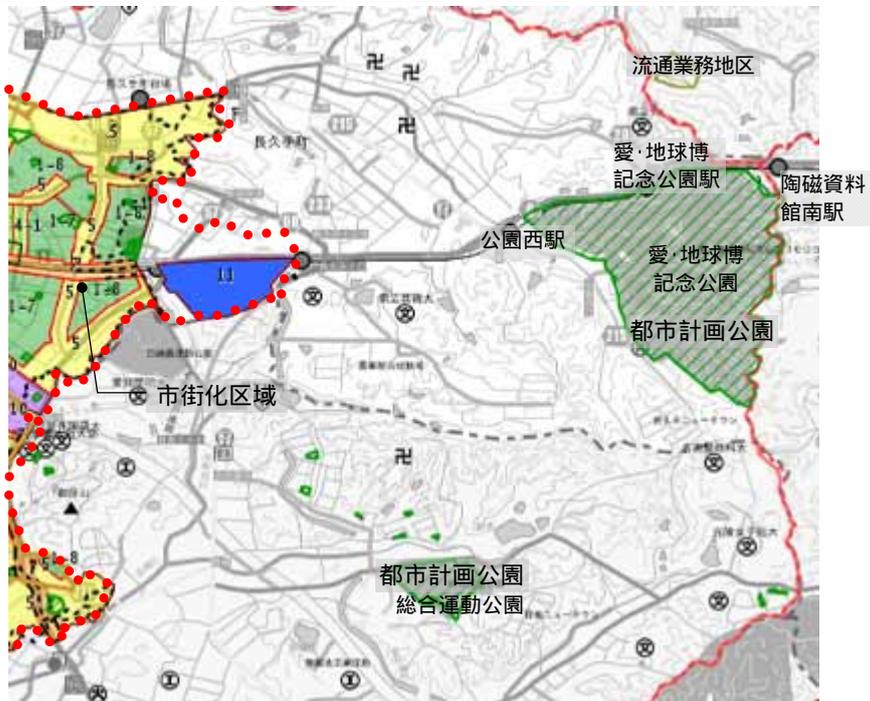


### 3 . こどものひろば周辺の都市計画・土地利用の状況

#### ( 1 ) 周辺の都市計画・土地利用の現状

##### 【都市計画図】

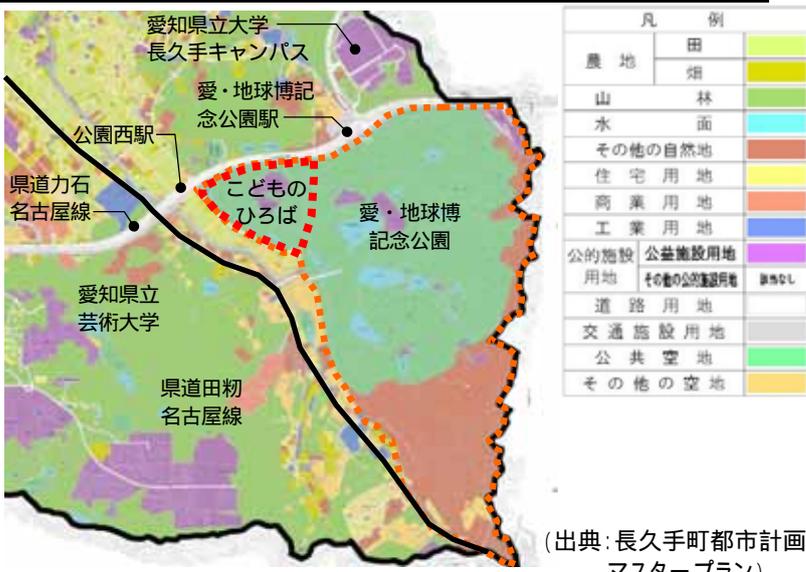
愛・地球博記念公園並びにその周辺地域は、市街化区域からは離れた位置にあり、市街化調整区域に含まれる。



出典: 愛知県 都市計画総括図)

##### 【土地利用現況図】

こどものひろば周辺の土地利用は、主に田畑と山林である。公園西駅付近では、この地域の道路交通の軸である県道力石名古屋線と県道田圃名古屋線が交差している。



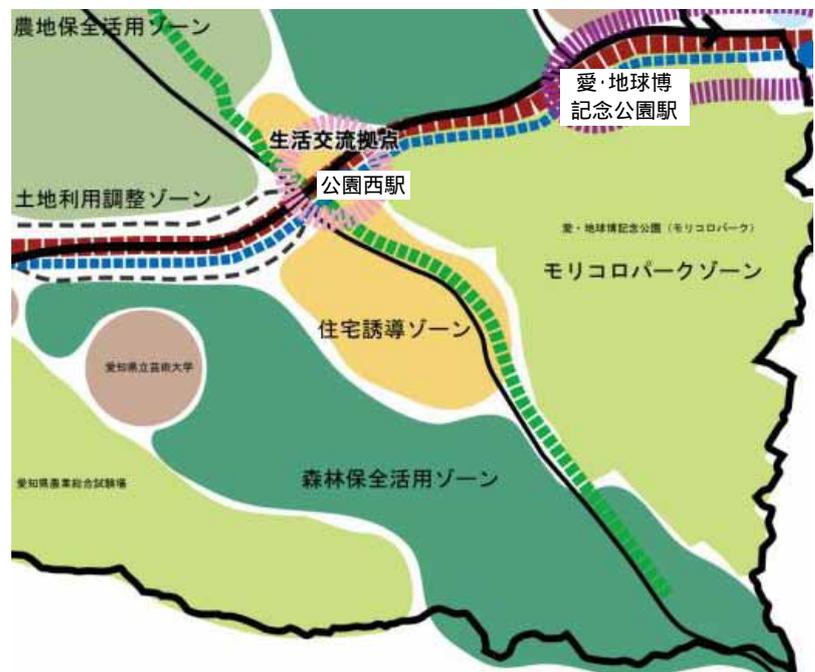
(出典: 長久手町都市計画マスタープラン)

## (2) 周辺土地利用の将来 公園西駅周辺

### 【長久手町都市計画マスタープラン(長久手町)】

長久手町都市計画マスタープラン(平成22年3月)において、公園西駅周辺は生活交流拠点と位置付けられている。土地利用のゾーニングは将来の新市街地となる住宅誘導ゾーンとなっている。

県道力石名古屋線と県道田村名古屋線が交差する交通利便性の高い公園西駅周辺は、民間活力を活用した商業施設の誘致や周辺の観光レクリエーション資源と連携したにぎわい機能の導入、地域住民の利便性向上に資する交通結節機能の強化等、本地域の拠点となる地区を形成することとし、市街化区域編入を前提に地区計画制度等の活用により計画的な市街地整備を検討するものとしている。



(出典：長久手町都市計画マスタープラン)

### 【公園西駅周辺の将来像について(長久手町)】

公園西駅周辺の住宅誘導ゾーン・生活交流地区については、愛・地球博時に駐車場であった約20haを、平成24年度に市街化区域へ編入する予定となっている。

生活交流地区については約7.0haあり、大型商業施設の誘致を検討している。

また、すでに杵ヶ池公園駅周辺にアピタ長久手店(3.0ha)があり、古戦場駅周辺には、イオン(3.9ha、シネコンのある長期滞在型施設)が出店予定となっているため、公園西駅周辺では、これら2つの商業施設とは異なる、より広域的で集客力の高い施設の誘致を検討中である。

### ( 3 ) 周辺土地利用の将来 愛・地球博記念公園駅周辺

#### 【長久手町都市計画マスタープラン（長久手町）】

愛・地球博記念公園駅周辺は産学交流拠点として、位置づけられており、北側にある愛知県立大学がその核となる。また、研究開発機関の立地を促進するとされている。



(出典：長久手町都市計画マスタープラン)

#### 【リニモ沿線地域づくり構想（愛知県、瀬戸市、豊田市、日進市、長久手町）】

##### < 将来像 >

愛知県立大学や地球市民交流センターを中心に、沿線大学の地域連携活動や様々な分野での市民交流が盛んに行われている等、人々が集い、学び、交流している。

駅付近には利便性が高い施設もあり、大学生や公園来園者で賑わっている。

パーク&ライド駐車場や駅と沿線周辺施設をつなぐフィーダー交通の拠点となっている。

##### < 整備イメージ >

**地球市民交流の拠点地区：**愛・地球博記念公園には地球市民交流センターをはじめ魅力的な施設が整備されている。また、駅周辺には利便施設も立地している。



(出典：リニモ沿線地域づくり構想，愛知県、瀬戸市、豊田市、日進市、長久手町)

## 4 . こどものひろばの位置づけ・役割について

### ( 1 ) 愛・地球博記念公園基本計画での位置づけ

こどものひろばの性格は「子どもの遊び・体験・レクリエーションの場」と位置づけられ、愛知県児童総合センターとの連携、自然エネルギーを活用した遊具や施設、利用プログラムの導入、県民協働による子どもを中心とした公園づくりプログラムの実施等の利用イメージが示されている。しかし、このエリアにおける県の新たな遊具等の整備計画は示されておらず、にぎわいの創出を考慮したこどものひろばの利用イメージの早期具体化が必要である。

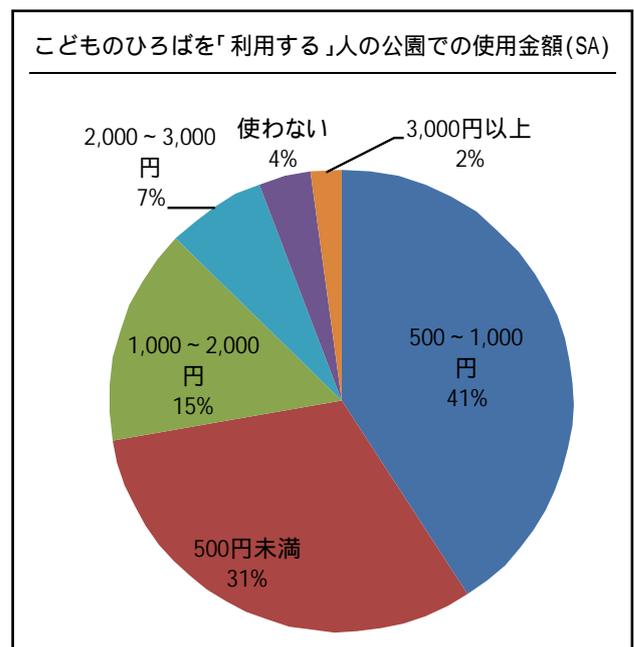
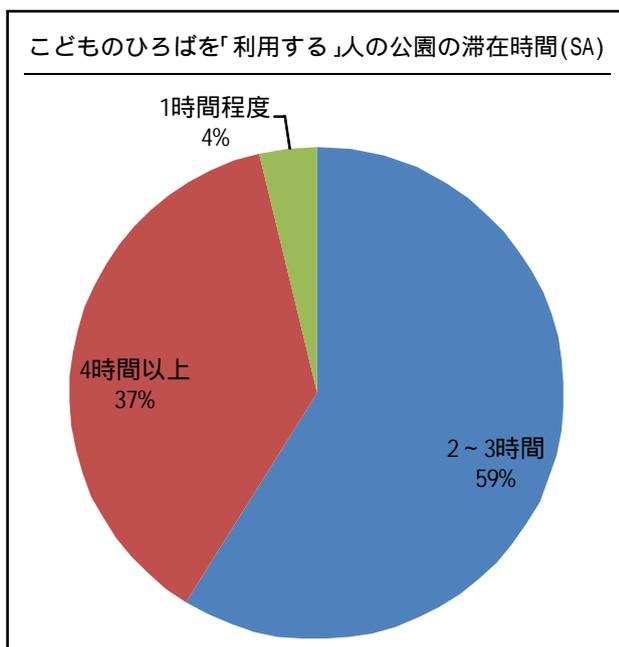
### ( 2 ) 周辺のまちづくりからみた役割

こどものひろばに隣接するリニモ公園西駅周辺地域では、平成 24 年度の市街化区域への編入をめざしており、駅北周辺では大規模商業施設の誘致が検討されるとともに、駅南周辺では住宅系の土地利用が計画されている。特に、駅のすぐ南には駅前広場や飲食等の商業施設が検討されているが、景観的にもこどものひろばと一体的な施設としての整備が望まれる。

この新たなまちづくりは長久手町が中心となって進めていくこととなるが、公園西駅に最も近いこどものひろばは、まちに必要な憩いや潤いの場としての機能を担うのはもちろんのこと、将来の駅周辺の賑わいと公園のさらなる施設を整備することによる賑わいが相まって、一層の交流人口の創出をめざす。

### ( 3 ) 公園来訪者の視点からみた位置づけ

平成 22 年 10 月 15 日～19 日に実施した「こどものひろばに関するアンケート調査」の結果によると、公園来訪者の視点からみた「こどものひろば」の位置づけは、現時点では、家族連れでのレジャーの場として、長時間、安価に楽しめる場所であったが、将来的には家族連れだけでなく、大人も楽しめることが期待されていた。



# 5 . こどものひろば整備の基本的考え方

## ( 1 ) 集客力向上に向けた意見

### 【アンケート結果から見た集客力向上への意見】

公園利用者から意見を聞くため、平成 22 年 10 月 15 日～19 日にかけて、公園内 2 箇所においてアンケート調査を実施した。( 回答数 454 人 )

#### < こどものひろばで希望する整備の方向性 >

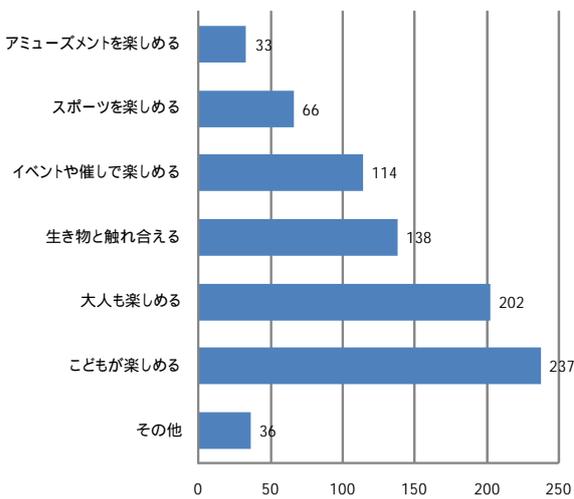
安価に楽しめる場としての整備が希望され、生き物、遊具、イベントに関する整備を求める回答が多い。

#### ( アンケート結果 )

- 希望するこどものひろば整備の方向性については、「子どもが楽しめる」が最も多く、次いで「大人も楽しめる」、「生き物とふれあえる」が続いた。( 整備の方向性 )
- 「子どもが楽しめる」施設を希望する人の具体的な整備の内容については、アスレチック・すべり台等の「遊具」が 29% と最も多い。次に多い回答としては、小動物園等の「生き物とのふれあえる施設」が 20%、ショー・コンサート等の「イベント」が 10% であった。( 整備の内容 )
- 次に希望する施設が整備された場合に支払える入場料・施設利用料については 22% が「無料」、33% が「0～500 円」、34% が「500～1,000 円」と答えた。( 利用料 )
- 60 歳以上の来園者がこどものひろばでよく利用する施設をみると、「飲食店・ショップ」の割合が、子ども連れの来園者の割合より高い。( 高齢者の利用目的 )
- 愛・地球博記念公園でモリゾーキッコロに会いたいかという質問に対しては 70% が「会いたい」と答えた。( モリゾー・キッコロの活用 )

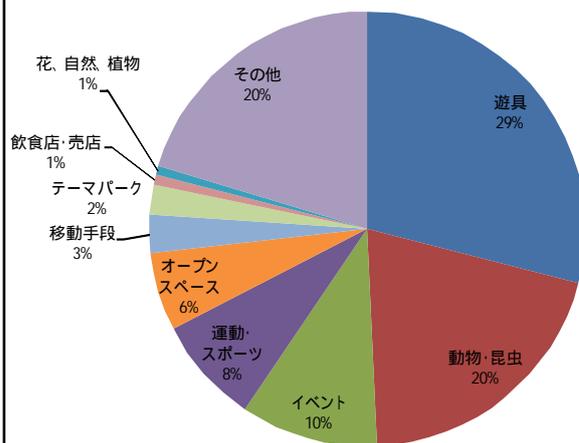
#### こどものひろばの整備の方向性について(MA)

こどものひろばの整備の方向性については、子どもが楽しめるが最も多く、次いで大人も楽しめる、生き物とふれあえるが続いた。



#### 整備を希望する具体的な施設・内容について (子どもが楽しめる施設を希望した人)(SA)

こどものひろばの整備の方向性について「子どもが楽しめる」を選択した回答者が整備を希望する具体的な施設・内容については、遊具が最も多く、次いで、動物や昆虫とふれあえる施設の順になった。



## 【こどものひろば整備関連企業からの意見】

整備に関心のある民間企業を公募し、検討会を開催して意見を伺った。

### <集客施設について>

- 大観覧車、愛知県児童総合センター、自然体感遊具のみでは今以上の集客は不可能。
- 愛知県児童総合センターの集客は飽和している一方で、そこで利用者がとどまるため、その先にある大観覧車まで来園者が向かわない。
- 子ども、親、祖父母といったターゲットごとに異なる施設を、こどものひろばというエリアに絞って、複合的に配置することで、集客力を高めることが必要。
- 両親・祖父母が楽しむために、産直市場等、もう少しお金を使える施設があってもよい。
- 公園西駅からの動線の確保が出来れば、こどものひろば限定の夜間営業も可能。
- インラインスケート、マウンテンバイク等のニッチなスポーツ施設等を整備すると、できる場所がそこしかないのが人が来てコミュニティが形成され、人数は多くないがリピーターが増える。
- 他にはないものを整備することで、集客力と話題性の両方を向上させる。
- 土日客をターゲットとしたら他の施設に魅力で負け、平日客をターゲットとしたら料金がなくて利用されないということのないように、施設が土日客向けか、平日客向けかの線引きを行った方がよい。
- 集客にあたって核となる施設・テーマが欲しい。整備する際には同じ色で統一されていたほうがよい。
- こどものひろばの全てを有料化するのではなく、家族も来やすい無料の施設もありながら、有料の施設も利用できるような形で組み合わせることで相乗効果を求めていく。
- COP10 等で名古屋には環境に関するイメージがある。環境技術等の企業の展示場といった、普段見られないものが核となる施設とする。
- 保護者が教育も兼ねて愛・地球博記念公園に行こうと思えるテーマ・コンセプトが必要。
- 今は、いろいろな施設を複合化させていくことが最も集客できる。どれだけ幅広い年齢層をターゲットにできるかが重要。
- 雨の日でも利用可能な施設として愛知県児童総合センターがあるが、人がいっぱいゆっくりできないイメージがある。屋外に全天候型のエリアがあると良い。
- 青少年公園時代には、中高生、大学生、社会人の合宿用の宿泊施設があったが、今はない。運動施設も多くあるため宿泊施設があると良い。

<回遊性・アクセス性について>

- 入口から目標物（大観覧車）までに楽しめるものがあり、見て回りながら自然と目標物までたどり着くことが理想。
- 公園西駅からこどものひろばまで歩かせる工夫として階段、エレベータを使う工夫も考えるべき。
- 電気自動車（速度 15km/h 程度）を使って親子で園内を走れるようにしてはどうか。
- 現在の愛・地球博記念公園駅からこどものひろばまでの道のりが遠い、アクセス路の緑陰の整備も必要。

<ソフト面について>

- こどものひろばに対する認知度向上のため、イベント、PR が必要。
- 平日客の利用者確保のために、学校・幼稚園の遠足・社会見学を呼び込む。
- リニモを含めた社会見学のパッケージを作成する。
- モリゾー・キッコロといったキャラクターを利用した PR が必要。
- 地球市民交流センターといった公園の他のエリアにある施設との関係について考慮する必要がある。
- 施設整備と PR は並行して行う必要があり、愛・地球博記念公園では来園者の満足度を上げるイベントだけでなく、来園を促すためのイベント（大規模・長期間）を大々的に行うべき。
- 東海地域では、5万人～10万人規模のコンサートが出来るところが無い。立地的には悪くない場所なので、設備が備われば年 1、2 回はコンサートが行われる場所になるのではないか。また交通機関が限定されるため、リニモの利用者増にも資する。

## (2) こどものひろば整備に関するコンセプト

愛・地球博記念公園基本計画では、公園全体の整備・活用の方針として、「博覧会の理念と成果を継承する都市公園」、「青少年公園の歴史を活かした都市公園」、「新しいニーズに対応した都市公園」、「多様な自然環境を育む都市公園」の4つを掲げ、愛・地球博記念公園は、健康で精神的な豊かさと楽しさに満ち、県民と共に成長・進化し続ける21世紀型の公園～サステイナブル・パーク～をめざしている。そうした方向の中で、こどものひろばには「子どもの遊び・体験・レクリエーション」という性格が位置づけられ、既存の愛知県児童総合センターに加え、大観覧車及び自然体感遊具が整備されてきた。

今後、こどものひろばの整備を進めていくにあたり、民間活力を取り入れた新たな施設を導入することにより、“遊び”をテーマに子どもを中心にしつつも、大人まで楽しめるアミューズメント、物販等の機能を複合的に配置し、民間と県の役割分担によって、平日・休日を問わず幅広い年齢層を集客する魅力を持ったエリアづくりをめざす。

また、こうした整備を進めることで、愛・地球博記念公園内の他のエリアとは異なる独自性を付与するとともに、遊びを通して環境を知ることができるような整備の推進を図っていく。

## (3) こどものひろばのキャッチフレーズ

こどものひろばにおいて、民間企業による集客施設の整備を誘導したり、イベント・PR等によってこどものひろばの認知度を向上させ、潜在的な集客力を顕在化させていくためには、こどものひろばのイメージ、整備の方向性、利用ポテンシャル等を効果的に伝えることが必要になる。

そのために、こどものひろばを表現するキャッチフレーズやキーワードを、今後の整備内容等を踏まえながら検討していく。

## (4) 整備方針

### 方針 1 : 施設機能の 複合性の創出

こどものひろばを利用する来園者の割合は公園の中でも最も高く、その多くは愛知県児童総合センターや自然体感遊具を利用している子ども連れであるが、現状の施設だけでは、大幅な集客の増加は望めない。このため、子どもだけでなく大人も楽しめるような魅力を持った施設機能を複合的に整備することにより集客力の向上を図る。

とりわけ、愛知国際児童年記念館が平成 23 年に閉館するにあたり、貸館機能は地球市民交流センターの供用開始により代替されるが、こどものひろばエリアでの全天候型施設が愛知県児童総合センターだけとなることもあり、代替機能の必要性を検討していく。

### 方針 2 : 民間活力の導入

こどものひろばの整備にあたっては、県と民間企業とが役割分担することで、投資効率を高める。中でも民間企業は、利用者からの収入によって運営することとなるが、民間ならではの楽しさ、奇抜さ等を備えた集客ノウハウにより、お金を使うことによる満足度アップも演出していく。

特に乗り物体験広場は「ワクワク感、爽快感等を体験できる乗り物遊戯空間」が公園基本計画の中で求められているので、民間企業に事業参画を働きかけていく。

### 方針 3 : サービスの 多様性の創出

こどものひろばへの集客層を幅広いものとするために、平日・休日を問わず来客の目的に合ったサービスを提供する。例えば平日は学校の遠足等に即したプログラムを提供したり、無料で遊べる施設を設置する一方で、休日は家族連れや若者を対象にした施設整備もエリアを区分して進めていく。そうした中で、公園の雰囲気を最大限に活用し、夜間の魅力も満喫できるように検討する。

### 方針 4 : 話題性・発信力 の創出

こどものひろばに遊びの施設を集約させるとともに、自然や地形を活かした遊具等近隣施設に無い施設を一つでも多く整備する。また、近未来的なデザインの採用やそのデザインによる統一感の形成等、公園内での独自のエリアを演出し、認知度の向上を図る。

さらには、こどものひろばの対外的発信力向上のために、こどものひろばでのイベントや新規供用施設等の情報発信を行うとともに、モリゾー・キッコロ等のキャラクターの積極的な活用も検討する。

方針 5 :  
回遊性の創出

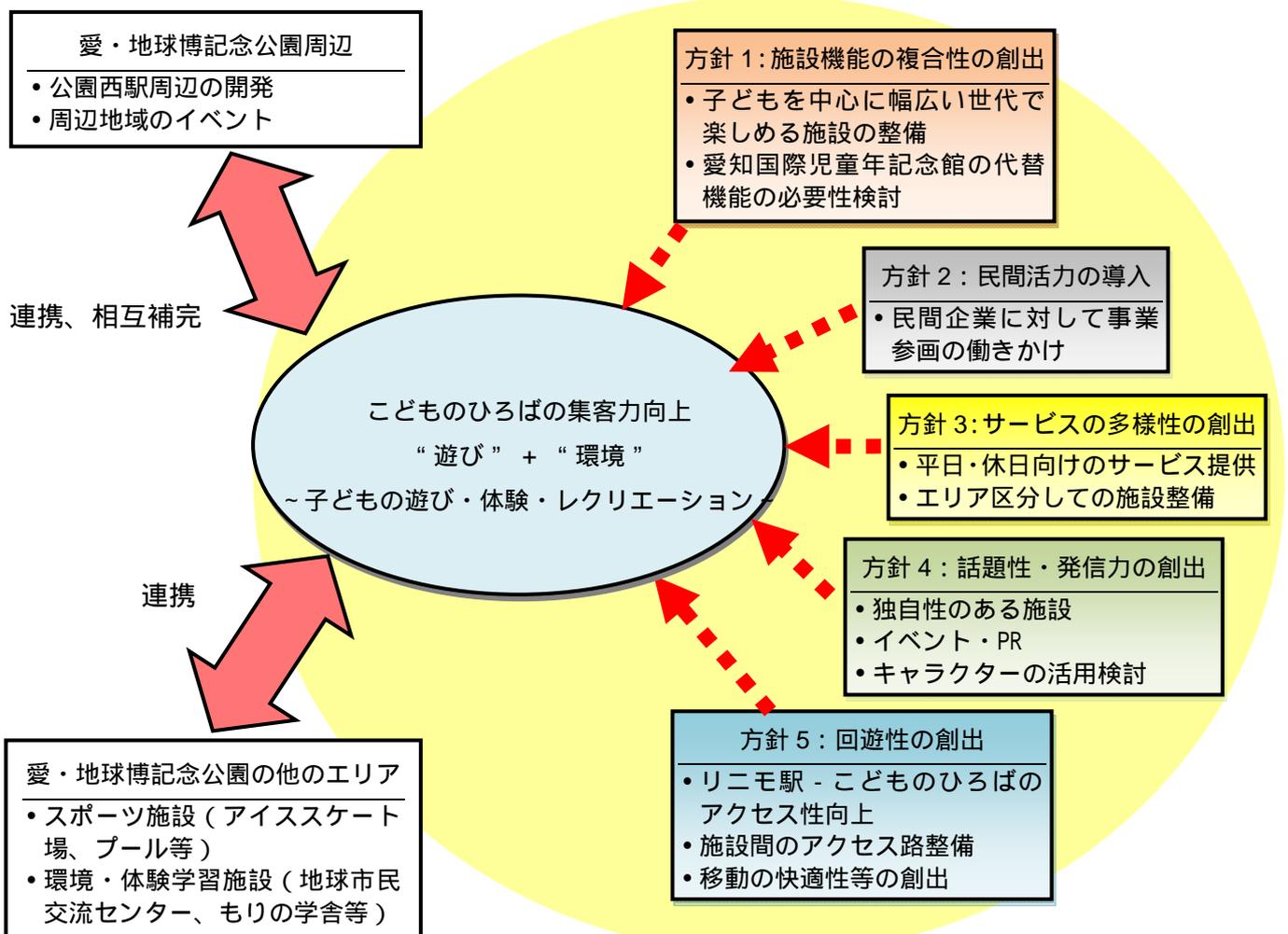
現在は愛・地球博記念公園駅からのアクセスが主流であり、こどものひろばまでの距離の遠さが集客性向上の妨げの一つとなっている。このため、公園西駅に近い所での新たなゲートの整備を検討するとともに、駅周辺のまちづくりとの連携の中で、駅からこどものひろばへのアクセス性を高めるための整備等を行うことで、こどものひろばとリニモ双方の利用者の増加を図る。

具体的には、駅やその他のエリアからこどものひろばまでのアクセス路に、緑陰、休憩所等インフラ整備はもとより、可能であれば連続して人を引きつける施設を立地させる等、移動の快適性を高める。また、移動を容易にし、アミューズメント性の向上にも資するように、独自性のある電動カート等の移動手段を導入する。

こどものひろば内においても、施設間のアクセス路に植栽等の環境整備を行うことで、移動の快適性やこどものひろば全体の楽しさを創出する工夫を凝らす。

また、こどものひろばと学習体験ができる他のエリアとの差別化を図り、相互が連携することにより、一日楽しく過ごせる公園にしていく。

【こどものひろばの整備方針と他の集客施設及び周辺地域との関係】





(5) 整備イメージ

**【アトラクションエリア】**  
 爽快感、わくわく感が楽しめる乗り物遊戯空間の整備

- ・既存の大観覧車をはじめとする様々なモビリティアトラクションの設置
- ・こどもから大人までが楽しめる空間としての施設の拡充
- ・夜間利用の検討
- ・未来型乗り物・面白乗り物の乗車体験

(展開例)  
 フライトアトラクション、巨大カード迷路、バーチャル昆虫採集、ボール落しライド、水風船アトラクション、大型複合遊具(巨大滑り台等)、省エネカー等の体験コース等

**【飲食・物販エリア】**  
 飲食施設や休憩所の充実を図る

- ・地元の飲食店等による臨時店舗の導入で休日に対応
- ・子どもに同伴する保護者が楽しめる場の提供

(展開例)  
 産直市場、地元臨時店舗の誘致

**【屋内型遊びのエリア】**  
 既存施設児童総合センターとの連携強化

- ・屋内施設と屋外施設の使い分けによる幅広い遊び場の提供

**愛・地球博記念公園駅 - こどものひろば間のアクセス向上**

- ・広い園内を楽しみながら移動できる乗り物の導入(電動カート等)
- ・樹木の植栽による緑陰のある歩道の整備
- ・連続して人を引きつける施設の設置

**【西エントランスエリア】**  
 公園西駅 - こどものひろば間のアクセス向上

- ・周辺まちづくりの中でのアプローチの検討
- ・広い園内を楽しみながら移動できる乗り物の検討

(展開例)  
 新たなゲートの整備、電動カート等の導入、階段、デッキ、動く歩道、エスカレーター等の整備

**【自然を活用した遊びのエリア】**  
 自然を活用したアクティビティ空間の提供

- ・既存施設(自然体感遊具)との連携
- ・現有の樹木を利用した本格的な自然体験型施設の整備
- ・斜面を利用した遊具の整備

(展開例)  
 フォレストアドベンチャー、巨大滑り台、アスレチック等

**【交流エリア】**  
 多彩なイベントが楽しめる全天候型の広場の提供

- ・雨天時に雨宿りのできる場所として提供
- ・子どもから大人までが楽しむことのできるイベントの開催場所の確保
- ・ピクニック広場としての確保

(展開例)  
 モリゾー・キッコロ等キャラクターを活用したイベントの定期的開催、ポップカルチャーイベント等

**【凡例】**

青枠：アクセス系の整備

赤枠：施設系の整備

**楽しみながら歩くことのできる散策道の整備**

- ・シンボル性のある樹木の植栽
- ・緑陰のある散策道の整備
- ・花による演出、ベンチの設置
- ・園路の再整備と、沿道での雰囲気づくり



## 6. 民間企業による整備の検討

### (1) こどものひろば整備関連企業検討会の開催

「こどものひろば整備関連企業検討会」(公園整備に関心のある民間企業で構成：公募)において、主な公園の事例等を参考に民間企業による整備について検討した。

#### 【参考】；集客施設のある主な公園の事例】

公園名	国営ひたち海浜公園	河川環境楽園	岐阜ファミリーパーク	刈谷市交通児童遊園
遊具施設 エリア名	プレジャーガーデンエリア	岐阜県営公園オアシスパーク アクアトトぎふ	こどもゾーン	-
公園年間 来場者数	108万人(2007年度)	377万人(2007年度)	51.1万人(2007年)	119.1万人(2009年)
事業主体	国土交通省関東地方整備局 (国営常陸公園事務所)	国土交通省中部地方整備局(国営公園) オアシスパーク株式会社(県営公園)	岐阜市 (管理・運営：岐阜市公園緑地管理共同事業体)	刈谷市 (管理・運営：刈谷市都市施設管理協会)
敷地面積	公園全体：約350ha プレジャーガーデンエリア：約24ha	公園全体：350ha(内供用面積158ha) オアシスパーク：3.4ha(開園面積) アクアトトぎふ：14.0ha(敷地面積)	公園全体：56.6ha	公園全体：2.2ha
公園概要	公園は、「海と空と緑が友達爽やか健康体験」をテーマとして、樹林、草地、砂丘、海浜、湧水地等、特色ある自然条件を生かした整備を目的としている。 24種類の有料の乗物を中心とした幼児向け遊園地である。(主に、小学校の低学年向けに施設を整備)	国営木曽三川公園三派川地区、岐阜県営公園、独立行政法人土木研究所自然共生研究センター、東海北陸自動車道の川島パーキングエリア・ハイウェイオアシスからなる環境共生テーマパークの総称。 岐阜県営公園エリアで水路を中心に、水族館、商業施設(アミューズメント施設含む)等の建築物を整備している。	総合運動公園。遊園地のあるこどもゾーンとスポーツ施設のあるスポレクゾーンに分かれている。こどもゾーンにはゴーカート、サイクルモノレール、インラインスケート場等がある。スポレクゾーンには、野球場、テニスコート、サッカー場兼ラグビー場、芝生公園が整備されている。	サイクルモノレール、グレートボセイドン、メリーゴーランド、ゴーカート等の有料の乗り物に乗って遊ぶことが出来、楽しみながら交通ルールが学習できる遊園地となっている。
運営・管理 体系	<ul style="list-style-type: none"> <li>国営常陸海浜公園事務所：公園の事業計画、調査設計、工事、施工管理、維持管理の許認可事務等</li> <li>独立行政法人都市再生機構：有料施設の設置・管理</li> <li>㈱常陸サンライズパーク：遊園地であるプレジャーランドの施設設置・運営</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オアシスパーク：株式会社セガ他9社の民間企業と、岐阜県及び各務原市・岐阜市・笠松町・岐南町が出資する民間主導型の第3セクターの㈱オアシスパークが維持・管理・運営。</li> <li>アクアトトぎふ：建設・維持管理を㈱ジー・エフ・イー、運営を㈱江ノ島マリンコーポレーションが行う。</li> </ul>	指定管理者制度により、「岐阜市公園緑地管理共同事業体」(岐阜市みどりのまち推進財団・岐阜造園・立花園で構成)が公園全体の管理・運営を行っている。 指定期間：平成21年4月1日～平成24年3月31日	指定管理者制度により、刈谷市都市施設管理協会が管理・運営を行っている。 指定期間：平成22年4月1日～平成27年3月31日
集客力向上への 知見	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設を集約したメリハリのあるゾーニング</li> <li>入口付近に乗り物を中心とするプレジャーガーデンエリアを整備</li> <li>施設間にサイクリングロード、シャトルバスを設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「集客性が高く、教育的効果の高い施設」を基調として県営公園エリア全体を整備</li> <li>サン・アントニオ風の景観創出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>こどもゾーンの施設の安価な料金(100～200円)</li> <li>イベントによる話題性の向上</li> <li>イベントでの産直市等の物販機能の提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての乗り物が1回50円という安価な料金</li> <li>回数券(11枚綴り,500円)を購入して1日中遊べる手軽さ</li> </ul>
リース期間	-	オアシスパーク：- アクアトトぎふ：30年	-	-
料金	各アトラクション：200～800円	大観覧車：600円(1ゴンドラ、1名あたり) カード迷路：400円(3歳以上) 水族館：大人1400円、中学生1100円、小学生750円、幼児370円	各遊具：小学生100円、中学生以上200円	各遊具：50円(小型遊具は20円)
総事業費	約40億円(初期投資額、回収期間9年)	オアシスパーク：49.2億円(内地費12.3億円) アクアトトぎふ：13.6億円(内建設費6.1億円)	22.2億円(初期投資)	-
収支	-	-	収入：3.66億円 支出：10億円(委託料)(岐阜ファミリーパーク全体)	収入：- 支出：8920万円

【参考 ; 事例にみる集客力、面積、入場料の関係】

施設の内容によるものの、広大な敷地面積と多くの施設を持つものは、多くの場合入場料が高く、かつ、施設の利用料をとる傾向があるが、集客力も高い。一方で、料金が少額で、集客力の高い施設は、敷地面積が小さく、施設数も比較的少ない傾向がある。

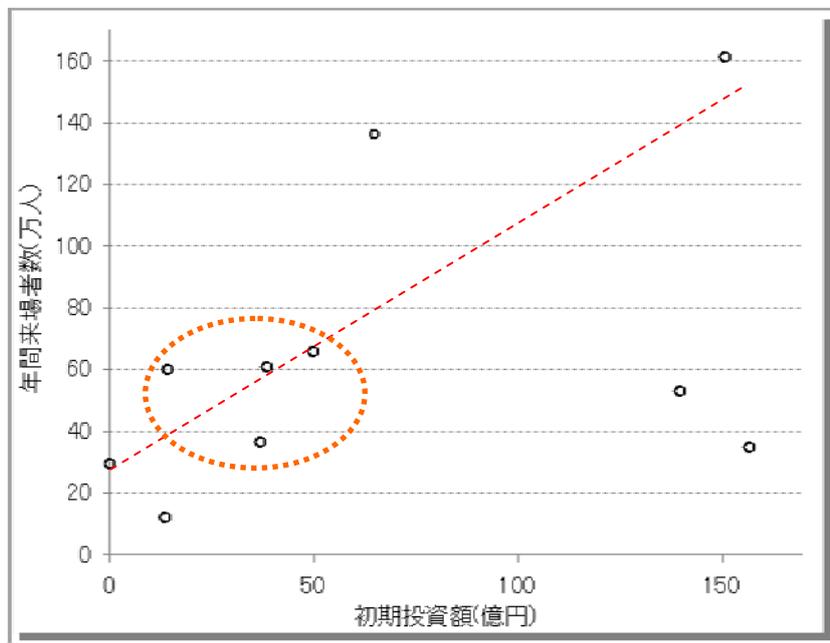
遊園地・公園名	敷地面積 (ha)	年間来園者数 (万人)	施設数	入場料・施設利用料
ラグーナ蒲郡 ラグナシア	108	260 (ラグーナ蒲郡全体)	23	入場料：大人1,600円、小・中学生900円、子ども700円 施設利用料：200～800円 主なアトラクション：ジェットコースター、屋内アドベンチャー、観覧車等 無料遊具：無料のアスレチック遊具(ステラパーク内)
鈴鹿 サーキット	205	191	38	入場料：大人1,600円、小・中学生800円、子ども600円 施設利用料：各乗り物100～1,200円 主なアトラクション：カート、サーキット、観覧車等 無料遊具：自然体験広場あり
刈谷市交通 児童遊園	2.2	119	10	入場料：無料 施設利用料：各乗り物20～50円、パターゴルフ100円 主なアトラクション：ゴーカート、乗り物、パターゴルフ場等 無料遊具：なし
日本モンキー パーク	50	73	49	入場料：大人1,600円、子ども800円 施設利用料：200～500円 主なアトラクション：ジェットコースター、カード迷路、シアター型アトラクション等、動物園 無料遊具：なし
とだがわ こどもランド	1.7	61	9	入場料：無料 施設利用料：足踏み式ゴーカート、サイクルモノレール100円 主なアトラクション：上記施設 無料遊具：大型アスレチック、水遊び場
平成記念公園 日本昭和村	160	56	23	入場料：大人800円、子ども400円 施設利用料：100～600円 主なアトラクション：体験学習施設 無料遊具：水遊び場
花フェスタ 記念公園	80.7	49	9	入場料：大人800円、高校生500円、小中学生400円(4月～11月) 大人800円、高校生500円、小中学生400円(12月～3月) 施設利用料：無料(アトラクション等なし) 主なアトラクション：なし 無料遊具：アスレチック
岐阜ファミリ ーパーク	56.6	46	14	入場料：無料 施設利用料：中学生以上200円、小学生以上100円 主なアトラクション：ゴーカート、ボブスレー、インラインスケート場 無料遊具：アスレチック、水遊び場
岐阜県 百年公園	100	24	33	入場料：無料 施設利用料：サイクリングコース160円、テニスコート510円 主なアトラクション：なし 無料遊具：大型アスレチック

( 飲食・物販施設、広場、植物園は除く、利用料無料の施設も含む )

【参考 ; 集客施設等の整備事例にみる施設等の投資額と来場者数】

次に、投資額と来場者数の関係性について、主に公園での整備事例を参考に以下に整理した。

複数の事例より、年間来場者数と初期投資額との間に明確な相関性はみられないものの、投資額が大きくなることで、多くの来場者数が確保できるという傾向が推察される。



公園及び公園内施設	入場料・施設利用料 (円/人)	初期投資額 (億円)	年間来場者数 (万人)
ひたち海浜公園 プレジャーガーデンエリア	アトラクション:200~600	40	-
アクアトぎふ	入場料:大人1,400、中高生1,100、小学生750、幼児370	13.6	40.6
オアシスパーク	アトラクション:400~600	49.2	377(河川環境楽園)
刈谷市交通児童遊園	アトラクション:20~100	-	119.1
岐阜ファミリーパーク こどもゾーン	アトラクション:100~200	22.2	30.9
日光江戸村	入場料:大人4,500、小人2,300	140	53
養老天命反転地	入場料:大人710、高校生510、小中学生300	13.8	12
花フェスタ記念公園	入場料:大人800、高校生500、小中学生300(4~11月) 大人400、高校生300、小中学生200(12~3月)	157	34.7
松坂農業公園ベルファーム	体験学習:1,000~1,500	14.4	59.9
新江ノ島水族館	入場料:中学生以上2,000、小学生1,000、幼児600	65	136
ジブリ美術館	チケット(入場引換券):大人・大学生1,000円、高校・中学生700円、小学生400円、幼児(4歳以上)100円	50	65.6
日本大正村	施設利用料:100~500	0.2	29.3
ひるがの公園「牧歌の里」	入場料:大人1100、中高生900、4歳以上600(冬季は全年齢300)	37	36.2
名古屋市科学館	入場料:大人800、高校・大学生500	38.5	60.7

## ( 2 ) 民間企業による整備の方向性

こどものひろばでの新たな施設には、来園者がお金を使うことによる満足度アップも演出していく必要があり、そのためには、民間ならではの楽しさ、奇抜さ等を備えた集客ノウハウによる整備が望まれる。具体的な事業展開については、企業の経営状態、今後の運営形態、安全管理方法等を含めた総合的な判断が必要となる。

今回の「こどものひろば整備関連企業検討会」構成企業に対する意向調査の結果は、現在の諸状況では事業資金が確保できない等の理由によって、新たな事業展開に慎重な企業が多かった。

またその一方で、今後の整備を具体的に検討している企業も存在することから、それらの企業等とは調整を進め、具体的な整備につなげていく。

## 7. 今後の集客力向上に向けた取組みの検討

こどものひろばの整備にあたっては、多くの事業主体による整備が想定されるが、そうした場合、施設整備方針・デザインから管理・運営にいたるまで、エリア全体の統一性の確保が必要となることから、その全体プロデュースは県が担うこととする。

### (1) 県による整備

#### 【県の役割】

エリアの一体的な魅力を創出する集客施設周辺の環境整備とゾーニングを行い、さらに、キャラクターの活用等を検討し、エリアの独自性・話題性を創出する。

整備方針	愛知県の取組み内容	備考
【方針1】 施設機能の複合性の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>こどものひろば内でのテーマ性のあるゾーニング</li> <li>イベントの開催場所の整備</li> <li>子どもを中心とした幅広い世代で楽しめる無料施設の整備</li> </ul>	-
【方針2】 民間活力の導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>民間企業の事業誘致</li> </ul>	-
【方針3】 サービスの多様性の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>遠足等での来場者向けの無料施設の整備</li> <li>夜間利用の検討（公園内のライトアップ等）</li> </ul>	-
【方針4】 話題性・発信力の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設周辺の環境整備(花修景等)</li> <li>キャラクターの活用</li> <li>持込イベントの誘致</li> <li>独自エリアの演出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長久手町、町内店舗及び民間企業との連携</li> </ul>
【方針5】 回遊性の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>公園西駅からのアクセス路の検討</li> <li>公園内散策路の整備(緑陰整備、草花による演出、景観舗装等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長久手町・公園西駅周辺開発との連携</li> </ul>

#### 【整備手法等】

国の補助金等を活用しつつ公園内における各種環境整備を実施する。

公園外となるリニモ公園西駅からのアクセス路整備、リニモ公園西駅での話題性のあるアクセス路の整備については、長久手町及び愛知高速交通株式会社等との連携により実施する。

また、話題性創出のための各種イベントについては、行政自らが行うものや民間企業の持込イベントを誘致し、定期的に開催していくことが必要である。

#### 【整備時期】

こどものひろば内における環境整備にあたっては、民間企業が整備する集客施設の整備時期及び愛・地球博記念公園における全体整備を考慮しつつ、平成26年度の供用開始を目標に整備を進めるものとする。

#### 【整備後の魅力の向上】

- イベントやキャラクターの活用により、こどものひろばのPRと話題性の向上を図る。

## (2) 民間事業者による整備

### 【民間事業者の役割】

“遊び”をテーマに子どもを中心にしつつも、大人まで楽しめる「ひろば」とするため、集客力のある施設を複合的に展開していくことが必要である。特に休日においては、近隣地域だけでなく、遠方からの集客も期待できる。このため、『方針1；施設機能の複合性の創出』、『方針2；民間活力の導入』の観点から、有料で楽しめる価値の高い施設を複数の民間事業者による複数の施設をこどものひろば内に展開し、長い時間楽しむことができる公園とする。

さらに、こどものひろば自体の魅力を高め、賑わいを演出していくため、『方針4；話題性・発信力の創出』の観点から、県や周辺自治体、地元の飲食店等と連携しながら、各種イベントを定期的で開催したり、独自性のある施設整備を行い、こどものひろばの話題性を創出していくものとする。

整備方針	民間事業者の取り組み内容	備考
【方針1】 施設機能の複合性の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>レジャー・スポーツ等の観点から子どもが体感しながら楽しむことができる遊具・施設の整備</li> <li>爽快感・わくわく感が楽しめるアトラクション</li> <li>スポーツ感覚で楽しむ施設</li> <li>自然を活用したアクティビティ空間</li> <li>大人が子どもとともに楽しめる飲食・物販施設の展開</li> </ul>	-
【方針2】 民間活力の導入		
【方針3】 サービスの多様性の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>週末、休日における夜間営業の実施と、夜間の魅力の演出</li> <li>魅力ある有料施設の整備</li> </ul>	-
【方針4】 話題性・発信力の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>季節に応じたイベントの開催（「光」、「食」等をテーマにした季節ごとのイベント開催）</li> <li>キャラクターの創出（モリゾー・キッコロの活用を含む）とイベントの定期的開催</li> <li>独自性のある施設の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県及び長久手町等との連携</li> </ul>
【方針5】 回遊性の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひろば内を楽しみながら回遊できる乗り物の提供</li> </ul>	-

### 【整備時期】

こどものひろば内において民間企業が整備する集客施設の整備にあたっては、愛・地球博記念公園における全体整備を考慮しつつ整備を進める愛知県との連携を密に、平成26年度の供用開始を目標に整備を進めるものとする。

## 【管理手法】

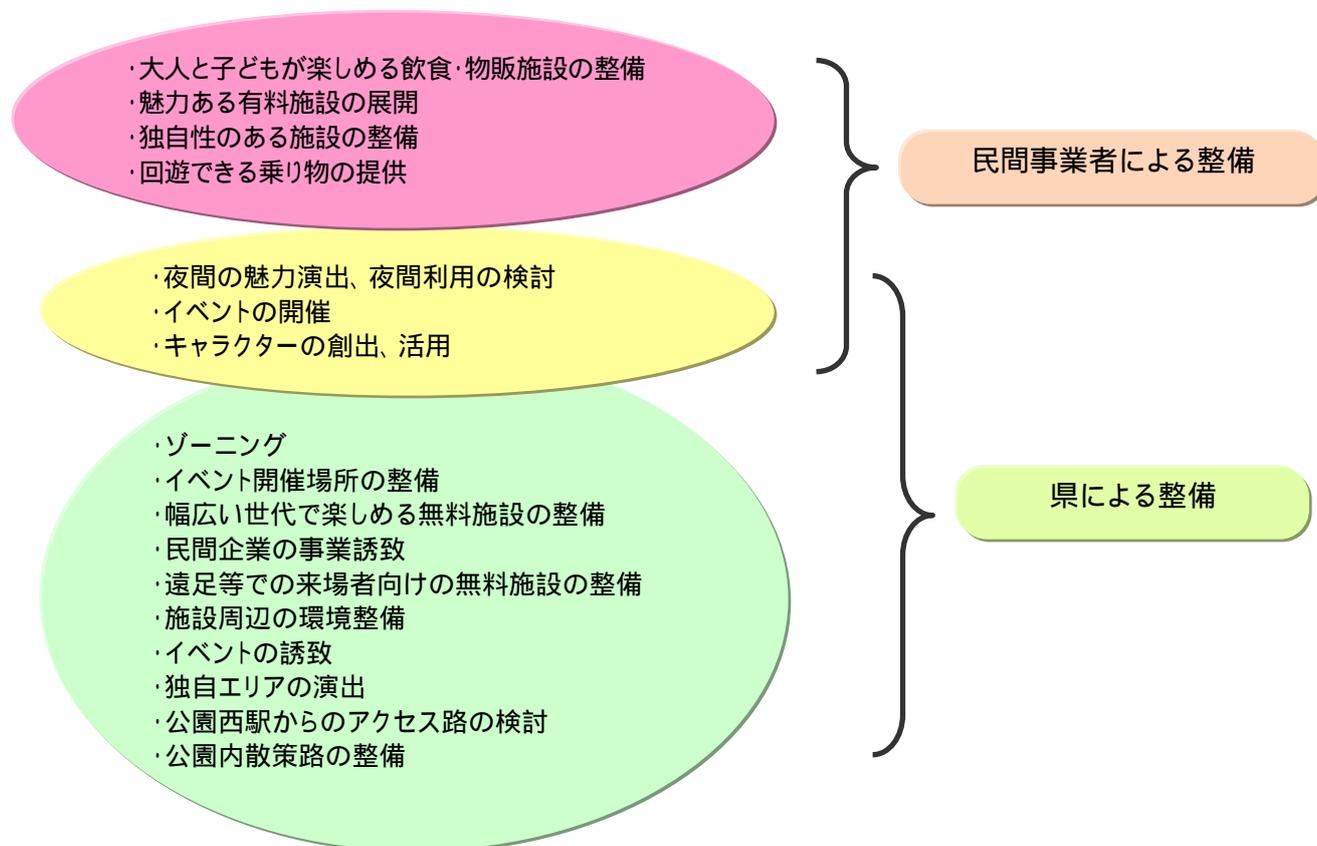
こどものひろば内において、統一的な環境・演出の中で楽しむことができるよう、こどものひろば内の施設の管理・運営にあたっては、各事業者が連携して取り組み、サービスの均一化、さらにはサービス水準の向上を図っていくことが必要である。

具体的には、料金体系の統一化、集客施設の連携による共通割引の実施、施設間の親切な案内、ユニホームの統一等細部にわたり取り決め、こどものひろばとしての一体感を演出していくことが必要である。

また、ひろば内で展開するイベントについては、多様性はあるものの、イベント自体の水準を一定レベル以上に確保できるよう、イベントの企画運営、もしくはイベントの監修を行う統括組織を設立しておくことも必要である。

## 【整備後の魅力の向上】

- 日常における適切なメンテナンスによる施設の安全性の確保。
- 日常における美化の徹底による各施設の魅力の維持。
- パンフレットやホームページ等の広報媒体によるエリアの使いやすさのアピール。
- 一定期間毎の集客施設のリニューアルの実施による魅力の維持。



### (3) イベント及び既存施設との連携等ソフトによる取組み

#### 【愛・地球博記念公園で開催されている主なイベントの概要】

継続的に行われている大きなイベントを以下に示す。これらのイベント以外にも、地球市民交流センター、愛知県児童総合センター、もりの学舎等で工作・料理・環境等の体験学習、大芝生広場でのキャッチボール教室やアイススケート場でのアイススケート教室といったスポーツイベントが定期的開催されている。

さらなる集客力の向上のために、愛・地球博記念公園をいまだ知らない人を呼び込むことのできる、継続的かつ独自性のあるイベントを行うことにより、認知度を向上させ、愛・地球博記念公園の潜在的な集客力を発揮させていく必要がある。

イベント名	イベント概要	イベント時の公園来園者数
トヨタ博物館 クラシックカー・ フェスティバル	トヨタ博物館から愛・地球博記念公園までの公道をクラシックカーでパレードする。愛・地球博記念公園では写真撮影会やステージイベント等が行われる。(5月、1日間)	8,400人
真夏の氷上祭典 「THE ICE」	国内外で活躍するトップスケーターによるフィギュアスケートショー、TV中継もされている。(7月、2日間)	25,500人
夏まつり・モリコロ パークお誕生会	開園記念イベント、花火、モリゾー・キッコロのステージショーを開催。(7月、2日間)	20,700人
日本水ロケット コンテスト	水ロケットの飛距離と精度を競う全国大会、地区大会を勝ち抜いた代表で日本一を決める。(9月～11月、2日間)	14,800人
愛知県市町村対抗 駅伝競走大会	愛知県の市町村対抗の駅伝大会。愛・地球博の開催を記念して2006年から開催されている。(12月、1日間)	13,600人
モリコロパーク 春まつり	大芝生広場での春祭り、スタンプラリー、ステージショーを開催。モリゾー・キッコロも登場。(3月、2日間)	平成22年3月 22,300人

#### 【こどものひろばの既存施設との連携】

- 夜間利用による観覧車からの眺望の魅力向上(ライトアップ、イルミネーション)
- テーマパーク的な有料施設と既存の無料施設(愛知県児童総合センター(中学生以下無料)、自然体感遊具)の複合化による相乗効果。
- 平日向け施設と休日向け施設、屋内施設と屋外施設、子どもを中心とした施設と大人も楽しめる施設等のすみ分けによる集客ターゲットの拡大。

#### 【愛・地球博記念公園の他のエリアとの連携】

- 遠足・社会見学等において体験学習を地球市民交流センターで、遊び・休憩の場をこども

のひろばで提供。

### 【周辺地域との連携】

- 地域に開かれたエリアとして、誰もが実施主体となるイベント会場の提供。
- 周辺地域の飲食店等と連携したイベントで、親も楽しめる飲食物の提供。
- 周辺大学との連携。県立芸大の作品（遊具として使用可能）や愛知工業大学のロボットといった、作品の展示・実験の場かつこどものひろばでの独自性のあるイベントの提供。
- キャラクターの創出と、このキャラクターを活用した定期的なイベントの開催。
- こどものひろば内の集客施設を運営する民間企業、周辺地域の企業との連携によるイルミネーション等、こどものひろば全体での季節感・テーマ性のあるイベントの開催。
- 公園西駅周辺が市街地となり、商業施設等が立地されていく中で、それらを目的に来た人たちを公園に呼び込むような仕掛けづくり。（例：お母さんは商業施設＋お父さんと子どもはモリコロパーク）

### 【リニモとの連携】

- リニモ体験乗車等と、こどものひろばの活用。
- ドニチエコきっぷのような、土日限定の割安な一日乗車券の検討。
- リニモ乗車券との割引制度の検討。

### （４）整備スケジュール（想定）

主体	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
民間事業者	投資判断 調整 基本設計	集客施設の段階的整備		
県		実施設計	段階的整備	
連携	イベントの企画・検討	イベントの開催・継続		

## 資料編

### (1) こどものひろば集客力向上検討会

#### 委員

(五十音順・敬称略)

氏名	所属等
あい はら あい 相 原 愛	前長久手町総合計画審議会委員
すず き たか み 鈴 木 孝 美	長久手町まちづくり推進部長
せ ぐち てつ お 瀬 口 哲 夫	名古屋市立大学大学院教授
た なか みつ ふみ 田 中 三 文	三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社主任研究員
ふじ わら のぶ お 藤 原 宣 夫	岐阜県立国際園芸アカデミー教授

#### オブザーバー

愛知県健康福祉部子育て支援課

財団法人愛知県都市整備協会 愛・地球博記念公園管理事務所

#### 事務局

愛知県地域振興部地域政策課

愛知県建設部公園緑地課

### (2) こどものひろば整備関連企業検討会

#### メンバー

公募により参加いただいた7社

### (3) 意見聴取の経緯

- 平成22年 8月31日 第1回こどものひろば整備関連企業検討会（現地調査）  
10月5日 第1回こどものひろば集客力向上検討会  
10月28日 第2回こどものひろば整備関連企業検討会  
11月26日 第2回こどものひろば集客力向上検討会  
12月16日 第3回こどものひろば整備関連企業検討会  
平成23年 2月2日 第3回こどものひろば集客力向上検討会  
1月～2月 第4回こどものひろば整備関連企業検討会（ヒアリング・アンケート）